

会 社 名 ティアック株式会社  
 コード番号 6 8 0 3  
 問合せ先 常務取締役法務広報統括  
 根岸 典靖  
 TEL ( 0422 ) 52 - 5009

## 業績予想・配当予想の修正並びに経営構造改革に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成14年3月期(平成13年4月1日～平成14年3月31日)の中間および通期業績予想を下記のとおり修正いたします。

### 記

#### 1. 14年 3月期中間業績予想数値の修正(平成13年4月1日～平成13年9月30日)

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成13年8月13日発表)	58,000	450	300
今回修正予想(B)	57,131	391	228
増減額(B-A)	869	59	72
増減率	1.5	13.1	24.0
前期(平成12年9月中間期)実績	76,379	1,071	432

#### 2. 14年 3月期連結中間業績予想数値の修正(平成13年4月1日～平成13年9月30日)

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成13年8月13日発表)	70,000	100	50
今回修正予想(B)	72,140	2,806	1,719
増減額(B-A)	2,140	2,906	1,769
増減率	3.1	-	-
前期(平成12年9月中間期)実績	83,209	1,943	876

#### 3. 14年 3月期通期業績予想数値の修正(平成13年4月1日～平成14年3月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成13年8月13日発表)	119,000	150	50
今回修正予想(B)	115,000	2,300	1,700
増減額(B-A)	4,000	2,450	1,750
増減率	3.4	-	-
前期(平成13年3月期)実績	155,057	1,960	1,241

4. 14年 3月期連結通期業績予想数値の修正 (平成 13年 4月 1日 ~ 平成 14年 3月 31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成13年8月13日 発表)	150,000	300	100
今回修正予想 (B)	144,000	3,400	3,700
増減額 (B - A)	6,000	3,700	3,800
増減率	4.0	-	-
前期 (平成13年3月期) 実績	180,047	2,310	757

5. 14年 3月期配当予想修正の内容

	中間期	期末	年間
前回発表予想 (平成 13年5月25日 発表)	-	5.00円	5.00円
今回修正予想	-	0.00円	0.00円
前期 (平成13年3月期) 実績	-	5.00円	5.00円

6. 理由

(1) 当期業績予想修正の理由

世界的な情報技術 (IT) 不況の直撃により、エレクトロニクス業界全体が深刻な打撃を受け、さらに米国における同時多発テロ事件が発生、世界経済の先行きに暗い影を投げかけ、世界同時不況の色合いが強まる中、当社主力のコンピュータ周辺機器の事業環境は、前回予想時に比べて予想以上に悪化、収益が低迷しました。通期の見通しについても、厳しい経営環境が見込まれることから、前回業績予想を上記のとおり下方修正いたします。

(2) 当期配当予想修正の理由

平成 14年 3月期の配当につきましては、1株につき5円を予想しておりましたが、上記の業績予想を踏まえて検討いたしました結果、上記のとおり修正させていただきます。

7. 経営構造改革の実施

今後も厳しい事業環境が続くものと予想されることから、当社では低収益体質を改善するため、付加価値の高い新製品の市場投入サイクルの短縮化、コスト対応力の強化を一段と進め、業績の早期改善を図るべく、以下の経営構造改革を強力に推進してまいります。

ビジネスユニットへの組織改革

新製品の市場投入サイクル短縮のため、従来の横割機能組織から営業・開発が一体となって商品開発に取り組む縦割事業組織のビジネスユニット中心の組織に改組します。特に、主力事業であるコンピュータ周辺機器事業においては、営業・開発・生産一体の事業部制を強化します。(平成 13年 11月 16日より実施予定)

キャッシュフロー改善による収益改善策

本年 1月より稼働している基幹業務システムにより、生産、販売、会計を統合し、リアルタイムでの情報共有の基幹情報インフラが整備されたことから、キャッシュフロー改善の仕組みをグローバル規模で構築します。

まず、主力事業の周辺機器事業において、

グローバル P S I (生産・販売・在庫)

販売・生産計画の短サイクル化

物流拠点の削減、新物流システム

を並行して順次着手し、平成 14年 4月より全面稼働させ、削減基準製品在庫 208億円の 60%の削減を目指し、これによりキャッシュフロー改善、物流経費削減および価格下落による逸失利益を回避します。

## 固定費の抜本的削減

国内外生産拠点の効率化を始めとして、連結会社を対象に固定費の削減を徹底します。

各施策を通じ、年間約12億円の固定費削減効果を予定していますが、一層の固定費削減に向け、順次可能な追加施策を実施してまいります。

### <業績等の予想に関する注意事項>

この資料に記載されております業績等の予想数字につきましては、現時点で得られた情報に基づいて算定しており、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化などにより、この資料に記載されている予想とは異なる場合がありますことをご承知おき下さい。

以上